

生活第一! 民主党!

まちづくりは
選挙から!

投票に
行こう!
10/18日



情熱と希望のまちづくり もっと住みよい野洲をめざし、行動力を生かす!

にし もと しゅん きち
西本 俊吉

平成17年の初当選以来、4年間、みなさまの声を市政に反映すべく活動してきました。特に、JR野洲駅プラットフォームの屋根延長と待合所の新設、年末年始の可燃物ゴミ集収体制の改善、子育て支援の保育所受け入れ態勢の確立と教育環境の改善などに取り組んできました。



次の4年間▶▶▶

- 子育て環境の充実と教育施設の耐震化**
保育園3才未満児の定数拡大と小中学校・幼稚園・保育園の耐震化を促進し、安全で環境の整った教育施設の整備に取り組みます。
- 安全と利便性のある道路交通網の整備**
高齢者や障がい者の利便性を考慮した市内交通網の促進や、湖南幹線道路の早期完工を図り、必要となる野洲川架橋の建設を国に働きかけます。
- 農林水産業の振興と地産地消の促進**
流した汗が報われる農林水産業の振興と、生産者と消費者が共に喜びを分かち合える「地産地消」の振興を図ります。
- 財政の健全化**
市民の目線に立ち、最小限の経費で大きな効果を生む行財政を確立します。



profile

- ・昭和19年8月生
- ・(株)日本通運に自動車運転手として勤めた後、中主町役場に39年間勤務
- ・平成17年野洲市議会議員初当選(現在1期目)
- ・野洲市西河原在住

まる やま けい じ
丸山 敬二

納めた税金を、公平にそして有効に使い、 市民がしあわせと感じられる市政を目指します。



profile

- ・昭和23年6月生
- ・関西電力株式会社勤務を経て株式会社きんでんに転籍、7年間勤務
- ・野洲市給与所得者の会会長(現在)
- ・野洲市三上在住

野洲の住民となって25年、野洲市給与所得者の会(旧野洲町給与生活者の会)会長として13年、この間行政懇談会や市から各種委員の委嘱をうけ意見を述べてきました。

しかし、各種行政懇談会等で出された建設的意見であっても活かされていないことも多く、非常に残念でなりません。

私はこのような経験から、議会の場で意見を訴えていく決意をしました。

野洲市の現状から、当面する課題として私が認識している次の点を最重要課題と位置づけ取り組んでまいります。

地方自治体は二元代表制をとっていますが、現実には首長がリーダーシップをとり、議会は行政の承認機関になっております。私は、この流れを打破し、二元代表制の趣旨にのっとり、積極的な政策提案を行っていきたくと思っています。

次に、地域経営には、なんとと言っても財源が重要です。市



民にとって必要で、投資効果のある事業は負債を抱えて実施することであっても反対はしません。費用対効果を充分検討してムダ遣いの排除に努めます。

そして、「夢・安らぎのある街に!!」を目指します。

1. 行財政改革の推進

集中改革プランのフォローアップと、納税者に公平・公正な予算編成を目指します。

2. 勤労者対策

企業には人が必要です。そしてその人の技術を次世代へスムーズに継承できるような支援策を検討実施します。

3. 教育環境の整備

待機児童をなくす方策を探ります。教育現場の声を尊重し、児童・生徒のための真の教育を推進します。

4. 地域医療と福祉の充実

開業医が増えるなか、野洲病院の医師不足解消および開業医との連携強化をはかります。

5. 安心・安全への環境づくり

危機管理体制の確立と地域間連携を強化します。障がい者にやさしい交通/バリアフリーの早期実施を目指します。

6. 地場産業政策の推進

野洲ならではの特産品づくりと生産者支援策を充実します。

あお き あい こ
滋賀県議会議員 **青木 愛子**
(野洲市選出)

profile

- ・昭和11年12月生
- ・滋賀県立膳所高等学校卒業
- ・故市川房枝氏を師に「女性の地位向上と政治参加への運動」へ参加し、その道を開く
- ・参議院議員秘書を経て平成11年滋賀県議会議員に初当選(現在3期)
- ・野洲市行畑在住

会派「民主党・県民ネットワーク」所属

- 「環境、農水常任委員会」委員長
- 「琵琶湖、淀川問題特別委員会」委員として「ダム問題、琵琶湖の保全、農業、水産、食の安心・安全など暮らしの問題解決」に奮闘中



今、政治は大きく動いた。 まるで山が動くかの如く!!



国の政治は国民が期待の「政権交代」

過日行われました衆議院総選挙は、地元の皆様から多大なるご支援を賜り、「政権交代」が実現致しました。鳩山内閣も始動し、地域での「民主党」の役割はますます大きくなり、責任のある立場になって参りました。

そして、県議会も「民主党・県民ネットワーク」が最大会派に!

昨年は副議長として県内を飛び回り、多忙な日々を送っておりましたが、今年は腰を据えて政策に取り組み、県民本位の解りやすい「もったいない」県政を進めます。